

人生 100 年時代構想について

人生 80 年と言われ始めてから久しいですが、日本人の寿命は今後も伸び続き、もうじき人生 100 年時代を迎えることになりそうです。この超長寿社会の到来を見据え、政府は昨年 9 月に「人生 100 年時代構想会議」なるものを立ち上げました。どのようなことが話し合われているのか、その一端を CBCA NEWS でご紹介します。

1. 「人生 100 年時代構想会議」とは

日本は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎えています。海外の研究によれば、2007 年に日本で生まれた子供については、107 歳まで生きる確率が 50%もあるそうです。超長寿社会において、人々がどのように活力をもって時代を生き抜いていくか、そのための経済・社会システムはどうあるべきなのか。こうした社会システムを実現するため、政府が今後 4 年間に実行していく政策のグランドデザインを検討する新たな構想会議が「人生 100 年時代構想会議」です。検討テーマは、教育に関するものが中心となっています。政府は教育を後押しする政策を「人づくり革命」と称し、重要政策として位置付けています。背景には、高齢者向けの給付が中心となっている現状の社会保障制度を、子供・若者から高齢者まで誰もが安心できる「全世代型の社会保障」へ大きく転換していこうとする政府の考えがあります。

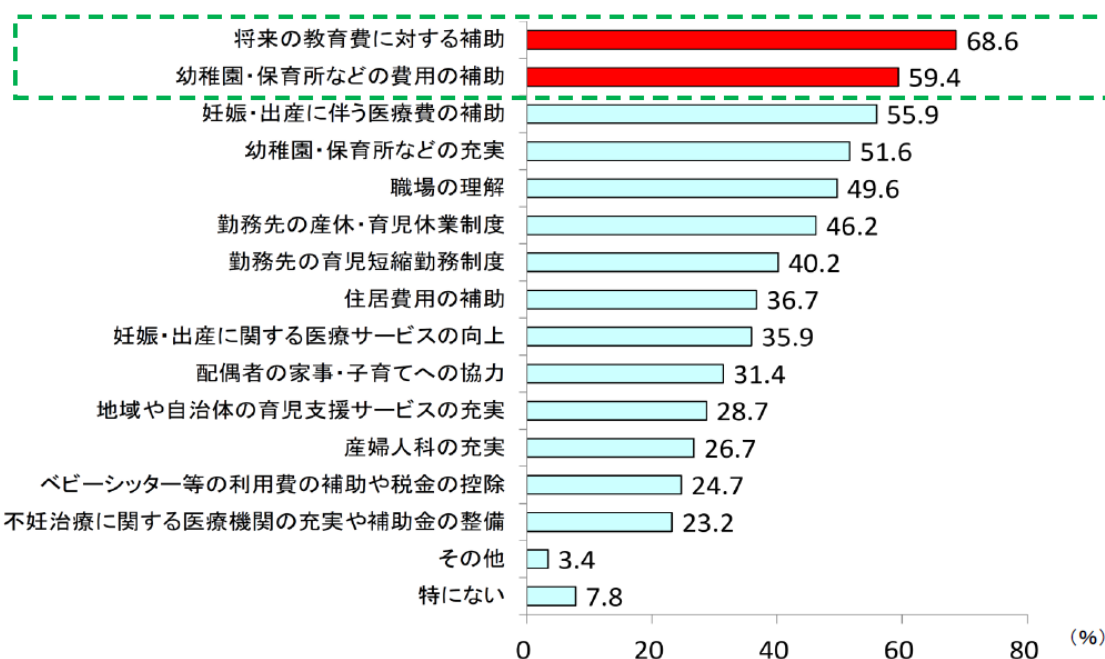
2. 構想会議の具体的なテーマ

会議の具体的なテーマは以下の通りです。

- (1) 幼児教育の無償化
- (2) 高等教育の無償化

いずれも、義務教育以外の教育資金に社会保障を投入するものです。教育費の負担を軽減することで出生率を改善しよう（資料①参照）、低所得層の進学率の低下による経済格差の固定化を防ごうというのが主な目的です。

①「どのようなことがあれば、あなたは(もっと)子供が欲しいと思うと思いますか」との質問に対する(複数)回答



出典：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）平成26年度「結婚・家族形成に関する意識調査」より作成。
※20代、30代の男女を対象とした調査。

(3) 大学改革

「大学は、知の基盤であり、イノベーションを創出し、国の競争力を高める原動力である」として、大学教育の質の向上や、学生が身に付けた能力・付加価値の見える化を行おうとするものです。改革においては、産業界が求める人材という視点を重視する方針です。

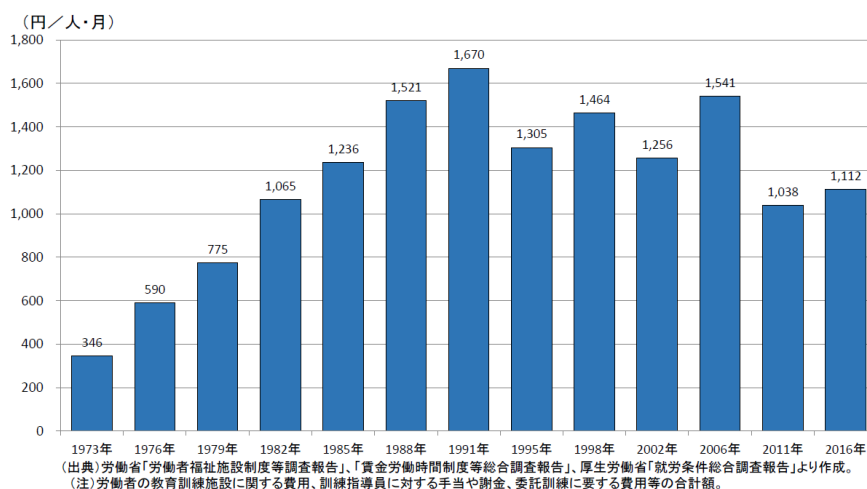
(4) リカレント教育

リカレント教育とは、基礎教育を終えて社会人になったあと、あらためて就労に活かすため学び直し、また就労するというサイクルを繰り返すことです。高齢化による就業年数の長期化が進んでいますが、求められる職業スキルが時代とともに変化していくことへの対応を支援したり、労働者個人個人のキャリアアップ・キャリアチェンジを支援したりすることにより、経済全体の生産性を高めようとするものです。

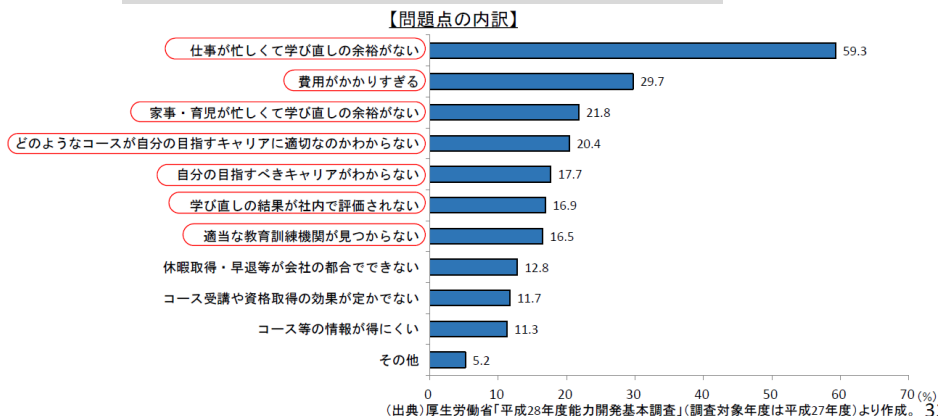
リカレント教育は、今回の検討テーマの中でも注目度が高いものです。日本では企業が人を育てるとの考えが一般的でしたが、民間企業が教育に掛ける費用は漸減傾向にあり（資料②参照）、産業競争力を考えるとき、人的資本の蓄積に不安がある状態です。人任せ、企業任せにせず、国としても学び直しを制度で支援していこうという考えです。

具体的な支援策としては、教育費の補助に加え、学び直しの障害となっている時間の捻出（資料③参照）を後押しするため、長期の教育訓練休暇に対する助成なども検討されています。

②民間企業における教育訓練費の推移



③正社員における学び直しの問題点の内訳（複数回答）



(5) 高齢者雇用の促進

既に浸透している政策ですが、高齢者雇用の促進もまた当会議で検討されるテーマのひとつです。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL: 03-3812-8211 FAX: 03-3812-8213

mail@cbca.jp http://www.cbca.jp

お問い合わせ先